

2 笛吹市の景観構造

(1) 地形から見た景観構造

本市の地形は、盆地地形、山地地形、山地内に切り込んだ谷地形に特徴があり、これらが景観構造の土台を形づくっています。

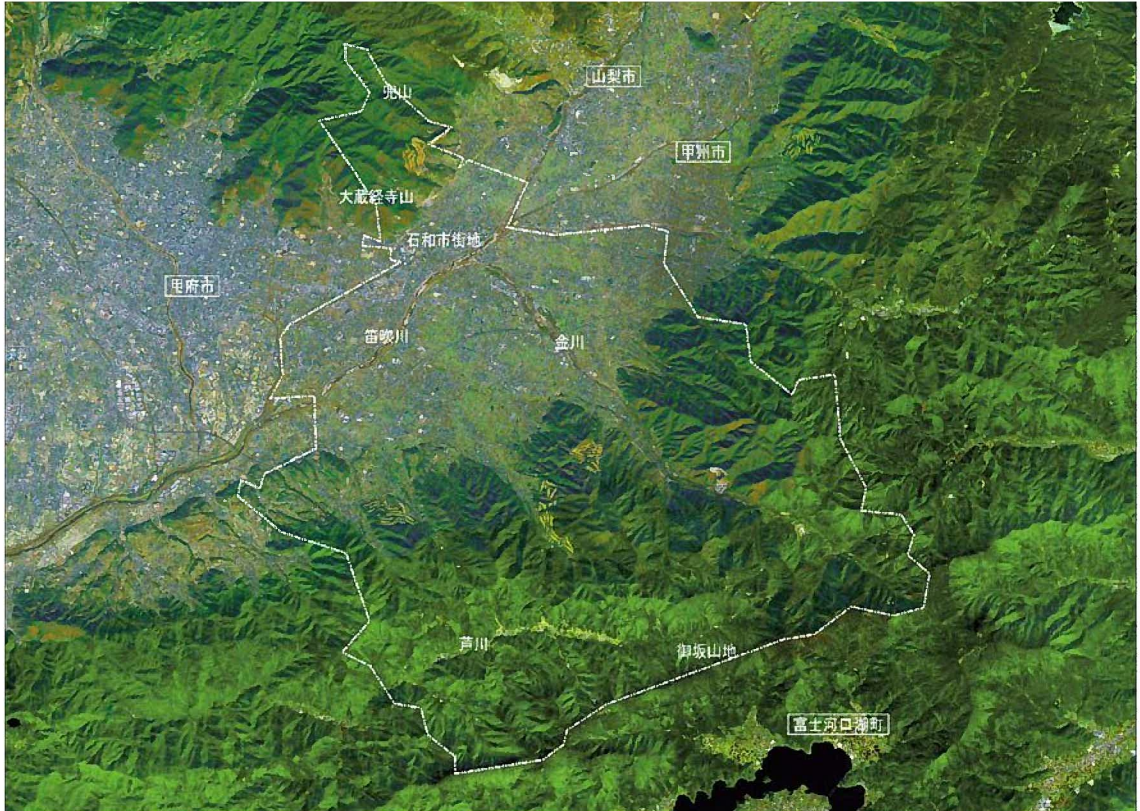
本市の構造的な地形は、南北を山々に囲まれた緩やかな盆地地形、南部の御坂山地の細やかな山地地形、その中に深く切り込んだ谷地形などで構成されています。さらに、盆地地形は、山地地形を除くと、笛吹川沿いに広がる沖積平地、山麓部に並存する扇状地と丘陵地で構成されています。

本市の美しく個性的な景観は、こうした地形構造（大地の構造）が土台となって形成されています。

■ 地形構造と景観的な特徴

	地形構造	景観的な特徴
盆地の景観	<ul style="list-style-type: none"> 本市の盆地地形は、笛吹川周辺の沖積平地、山麓に形成されている大小の扇状地、丘陵地によって構成され、その外側には山地が取り囲んでいます。 沖積平地は、笛吹川の両側に広く形成されています。 扇状地は、御坂山地の山麓部に広く形成されています。金川、浅川の大規模な扇状地に加え、大石川、京戸川などが典型的な扇状地を形成しています。 丘陵地は、山地の稜線末端部などに点在しています。中でも甲府市から連なる曾根丘陵は、まとまった丘陵地となっています。 	<ul style="list-style-type: none"> 沖積平地からは、周囲の山なみや山麓部がよく視認され、やわらかく囲まれた落ち着きや空間的なまとまりを感じさせる景観（囲鏡景観）が形成されています。 反対に高台からは、地形全体が凹状であるため、眺望域が広く迫力を持って眺められ（コンケーブ景観）、左右にも広がる眺望地点では、パノラマ景観が展開しています。 このように、眺望景観に優れていることや、どの場所も眺めるところであり、眺められるところであることが、盆地地形の景観的特徴であるといえます。
谷の景観	<ul style="list-style-type: none"> 本市の谷地形は、御坂山地の山麓に沿って形成されています。 中でも芦川の谷筋と金川上流部の谷筋が大きく、構造的な谷地形となっています。 	<ul style="list-style-type: none"> 谷地形は、両側に山が迫り、谷筋の方向にのみ見通しがきくという、方向性（軸性）のある景観に特徴があります。 眺められる範囲に限られるため、どちらかというとなら近景から中景に意識が集まりやすくなります。
山地の景観	<ul style="list-style-type: none"> 市域南部の大きな面積を占める御坂山地と、北部の大蔵教寺山、兜山周辺が本市の山地となっています。 特に御坂山地は、多くの山頂（ピーク）を連ねる山なみや、幾重にも陰影をつくる山巒が張り出し、複雑な山容を呈しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 山地の景観は、年間を通して四季変化を見せるとともに、気象条件や日照条件によっても刻々と陰影や様相を変え、ふるさとの風景に表情を与えています。 また、大蔵経寺山（御室山）、兜山、蜂城山、達沢山、大柄山などは地域のランドマークやシンボルになっています。
市外の山地の眺め	<ul style="list-style-type: none"> 甲府盆地の一面をなす本市では、わが国を代表する山岳地帯の山なみを日常的に眺めることができます。 代表的なものとしては、西方の南アルプス、北方の秩父山地、東方の大菩薩連嶺の山なみなどが挙げられます。 	<ul style="list-style-type: none"> 市外であっても大きな山や山なみは、自然のランドマークであり、景観的には重要な構造要素となっています。 古来より変わらずに存在し、多くの人に眺められてきた山々の眺望景観は、心象景観も含めて本市のイメージに大きな影響を与えています。

■本市の衛星写真



■本市の地形構造(大地の構造)



(2) 土地利用から見た景観構造

本市の土地利用は、地形構造に即して市街地、郊外樹園住宅地、山麓樹園集落地、山間農山村地、森林地によって構成されており、これらが景観構造の基調を成しています。

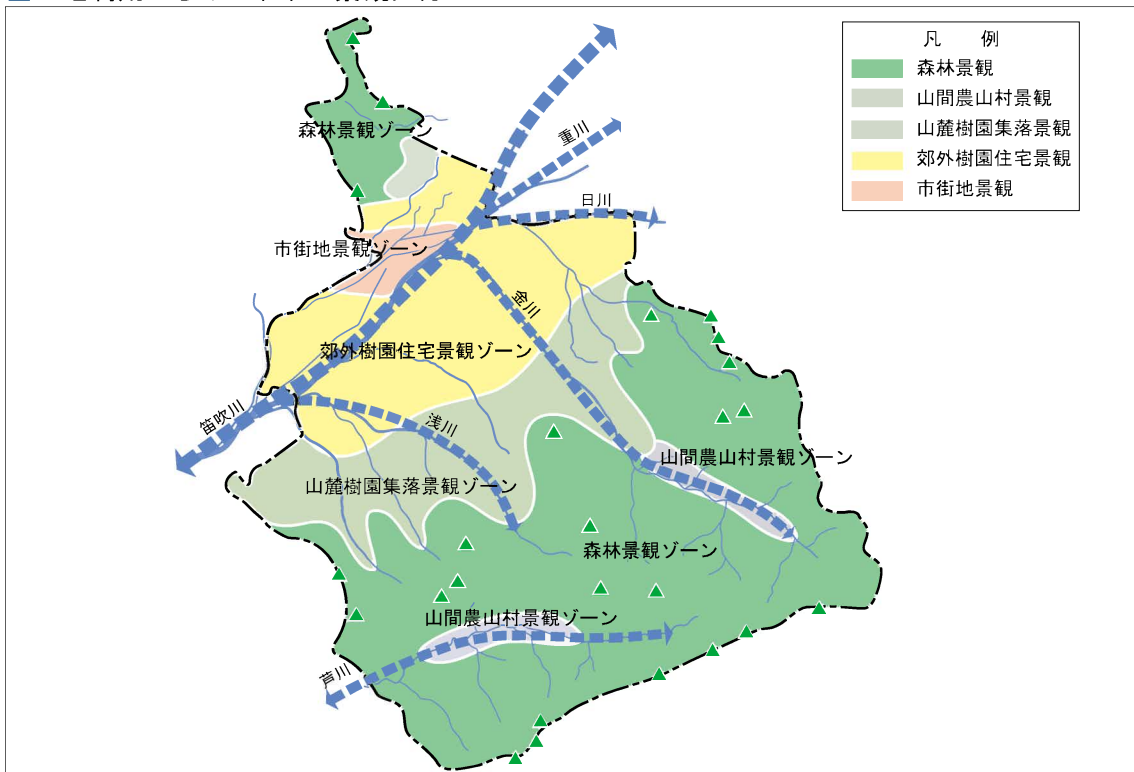
本市の景観を土地利用に起因して分類すると、石和温泉駅南側にまとまって見られる市街地景観、その郊外となる低地部に展開する郊外樹園住宅景観、主として御坂山地の山麓に展開する山麓樹園集落景観、芦川沿いや金川上流部にみられる山間農山村景観、市域の約6割を占める森林景観に分類されます。

土地利用も地形構造（大地の構造）に即しているため、類似する傾向がみられ、笛吹市らしさの景観的な構造を規定しています。

■土地利用分類と景観的な特徴

	景観的な特徴
市街地景観	石和温泉駅南側、温泉街、国道20号（甲府バイパス）一帯は、本市の玄関口、中心市街地として、店舗、ホテル、旅館、住宅等が集積する商業地景観や市街地景観が展開しています。
郊外樹園住宅景観	中心市街地のまわりの盆地低地部は、果樹園などの農地と住宅地が併存する景観を基調に、集落地や新興住宅地、幹線道路沿いの店舗、公共施設などが点在する郊外の樹園住宅地景観が展開しています。
山麓樹園集落景観	山麓の緩やかな傾斜地では、古くからの農村集落地が果樹園のなかに点在する樹園集落地景観が展開しています。この山麓部には優れた眺望地点が多く存在するとともに、盆地低地部から眺められる背景でもあります。
山間農山村景観	芦川と金川上流部に沿って立地している谷合には、川に沿って集落地や小規模な農地が点在する農山村景観がみられます。特に、芦川地区は地形に即した石垣や兜造り民家群などの特徴的な景観がみられます。
森林景観	北部の大蔵経寺山、兜山周辺と、大きな面積を占める南部の御坂山地一帯は、概ね森林に覆われており、豊かな森林景観が展開しています。

■土地利用からみた本市の景観区分



(3) 本市の景観構造

本市の景観構造は、2つの骨格的な自然景観軸、5つの景観ゾーンおよび2種類のランドマークで構成されています。

本市の景観構造は、前述した地形構造（大地の構造）を土台として、その上に土地利用の構造が重なり、市全体として大きく次に示すような2つの「骨格的な自然景観軸」、5つの「景観ゾーン」および「ランドマーク」で構成されています。

■ 現況の景観構造

